共同研究申請書

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ＊共同研究番号： | | | 申請年月日：　　　　年　　月　　日 | |
| 研究主体 | 1.大学教員の研究　2. 附属教員の研究　3.学部生・院生を含めた研究 | | | |
| 研究者 | 附属学校園 | | 大学 | |
|  | 氏名 |  | 氏名 |  |
|  | 所属 |  | 所属 |  |
| 研究題目 |  | | | |
| 目的 |  | | | |
| 方法：  データ収集  データ分析・考察 |  | | | |
| 研究成果の公表予定 |  | | | |
| 児童生徒の安全性の確保について |  | | | |
| 児童生徒の個人情報保護について |  | | | |
| 附属教員と大学教員の関わり方 |  | | | |
| 今後の予定 | 倫理審査申請： | | | |
| 予算 |  | | | |

共同研究申請書　サンプル

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ＊共同研究番号： | | | 申請年月日：2020年　8月17日 | |
| 研究主体 | 1.大学教員の研究　2. 附属教員の研究　3.学部生・院生を含めた研究 | | | |
| 研究者 | 附属学校園 | | 大学 | |
|  | 氏名 | 附属学 | 氏名 | 新潟教子、学部育夫＊ |
|  | 所属 | 附属新潟小学校 | 所属 | 教育学部理科教育、学部4年生＊ |
| 研究題目 | 理科授業におけるモデリングの有用性 | | | |
| 目的 | 本研究は小学校理科において、児童の自然現象に関する本質的な理解を促すためにモデリングが有効であるかを小学校３年生の理科授業実践を通して明らかにする。 | | | |
| 方法：  データ収集  データ分析・考察 | * 小学校3年「光であそぼう」の単元8時間の授業実践について、1組においては意図的にモデリングを導入した授業、2組においては通常の授業を行う。学部生が1組において2時間の授業実践を行う。2クラスの児童のワークシートの記述を比較・分析し、意図的にモデリングを導入した場合に児童の自然現象に対する理解がどのように促されるかを明らかにする。 * 収集するデータは2クラス8時間の授業において、児童が記入したワークシート及びビデオ録画である。 * データ分析はワークシートの記述について、質的研究法を用いて分析を行い、モデリングの活用と児童の学びの関係について明らかにする。ビデオ録画は、ワークシートの分析で得られた結果を確認するために用いる。 * 附属学校教員は、研究協議会の研究授業においてモデリングによる活動を取り入れ、その効果を検証する。 | | | |
| 研究成果の公表予定 | 本研究の成果は、大学教育における成果の一部として卒業論文集に掲載され、研究室内の発表会で公表されると共に、教育学部研究紀要や日本理科教育学会などの学術的な学会や学術誌で公表される予定である。 | | | |
| 児童生徒の安全性の確保について | * 本研究では、担当教諭との綿密な打ち合わせをもとに、教科書に則った内容について、3年1組では意図的にモデリングを用いて学習を行う。モデリング自体に身体的危険は伴わないものの、自然現象を抽象化・簡略化して表現するモデルの扱いに不慣れである児童にとって不安な気持ち（精神的負担）が生じる可能性がある。一つ一つ手順を追って丁寧に説明することによってその困難を解消するように努める。 * 授業は野外で虫眼鏡を用いて紙を焦がす活動を含む。活動中は他者との間隔をとり、やけどや火災が起きないように、指定されたもの以外には日光を当てないことを注意する。万が一、やけどや火災が起きた場合の注意を事前に児童に伝え、安全に配慮する。 * 虫眼鏡で直接太陽を見ないように強く口頭で注意を促し、怪我や事故が発生しないように注意を払いながら活動を行う。 * 新型コロナウイルスの感染防止対策のため児童及び教師はマスクを着用して授業を行う。ただし、熱中症の危険があると判断した場合は、換気や児童の間に十分な間を開けるなどの配慮をした上でマスクを外し、熱中症対策に努める。また、共同研究者は、新型コロナウイルス感染防止対策について、大学のガイドライン及び附属学校のガイドラインに沿った対応を行い、感染予防に十分な注意を払う。 | | | |
| 児童生徒の個人情報保護について | * ビデオデータは児童の顔が特定できないように、児童の背後から撮影する。また、研究に同意しない申し出があった場合は、当該の児童を音声及びビデオデータに含めず、ワークシートと振り返りシートもデータに含めない。 * ワークシートと振り返りシートには番号と個人名を記入するが、分析にあたっては番号のみで処理する。 * 本研究の成果は、大学教育における成果の一部として、卒業論文集に掲載され、研究室内の発表会、及び日本理科教育学会などの学術的な学会や学術誌で公表されるが、その際に、学校名や個人名等、個人を特定しうる情報は一切公表されない。 * 全ての研究データは研究室（教育学部A400）内の鍵のかかるキャビネットにおいて、新潟教子を保管責任者として、10年間保管される。 | | | |
| 附属教員と大学教員の関わり方 | * 本研究は学部4年生の卒業研究を学生、大学教員、附属教員の3者が協力して行うものである。 * 3者は研究打ち合わせを入念に行い、授業実践に関する単元開発、モデリングの取り入れ方、データ収集と分析を共同で行う。 * 学生が卒業論文を作成するのと並行して、3者共同で論文執筆を行い、教育学部研究紀要等へ投稿する。学会発表にもつなげる予定である。 | | | |
| 今後の予定 | * 2020年8月：研究打ち合わせ * 2020年9月：授業実践によるデータ収集 * 2020年10月～12月：データ分析と考察 * 2021年：論文執筆と投稿、学会発表   倫理審査申請：2020年8月末に申請予定 | | | |
| 予算 | 新潟教子の基盤研究費 | | | |

このサンプルは倫理審査の内容を踏まえ作成しました。ご不明な点があれば、附属学校部にお問い合わせください。[fuzokuinfo@cc.niigata-u.ac.jp](mailto:fuzokuinfo@cc.niigata-u.ac.jp)